

## 第 6 回九頭竜川流域懇談会 議事骨子

日時：平成 26 年 2 月 3 日（月）15：00～17：00

場所：福井県国際交流会館 B1F 多目的ホール

第 6 回九頭竜川流域懇談会の内容は次のとおり

### ◆新規委員の紹介

新規委員 4 名の紹介を行った。

### ◆審 議

---

#### I. 九頭竜川水系河川事業の実施状況報告（国土交通省）

国土交通省が実施している河川事業ならびにダムとの管理状況について、河川管理者から以下の報告を行った。

1. 治水事業の概要
2. 自然再生事業の概要
3. 足羽川ダム建設事業の進捗状況
4. 真名川ダム、九頭竜ダムの洪水調節効果

#### ■委員からの主な意見・質問及び河川管理者の回答

【質問】 昨年のお出水後にえちぜん鉄道の鉄橋の下流あたりに多くの漂流物がたまり、そのままになっている。処理のお願いなどはどこに連絡すればよいか。

【回答】 大きな漂流物などは日常の維持管理で処理を行っている。連絡をいただく場合は、国土交通省福井河川国道事務所か同九頭竜川出張所に一報いただければ可能な範囲で対応する。

【質問】 真名川ダムのフラッシュ放流による効果として、砂州や植生などの外見だけでなく、魚類の生息環境や地下水等への影響を報告いただきたい。

【回答】 平成 15 年以降、フラッシュ放流を行っており、礫河原が少し再生され、アユが好む藻類の分布が拡大している。詳細は、九頭竜川ダム統管理事務所のホームページで紹介している。

【意見】 河川整備の進捗点検は、現状のほか今後の工事の進め方や課題を合わせて県民に周知することで河川事業に対する住民の協力が得られると思う。

【回答】 意見をふまえ、業務に反映していく。

【質問】 足羽川ダムの環境アセスが完了したとのことであるが、今後のモニタリングの項目、方法について教えてほしい。

【回答】例えばクマタカの保全については、工事で発生する音を事前に確認し、影響の有無を判断する。また、実際に営巣を確認した場合は、工事の時期をずらすなどの対応をはかる。

【意見】足羽川ダムの建設に関して、環境に関するモニタリングの方法や結果も広報していくことが大事である。

【回答】住民に認知されるよう工夫して公表していく。

## II. 九頭竜川水系日野川ブロックの河川整備計画の点検（福井県）

県の管理区間において九頭竜川水系日野川ブロック河川整備計画に基づき実施してきた事業や取組みにおける進捗点検結果について、河川管理者から以下の説明を行った。

### 1. 河川整備の進捗状況の点検

- 1) 河川改修の進捗状況の点検
- 2) 多自然川づくりの取組み状況
- 3) 総合治水対策の取組み状況

### ■委員からの主な意見・質問及び河川管理者の回答

【質問】河川整備計画を定める際の治水安全度である 1/10 確率、1/30 確率などの各河川への適用基準があれば教えてほしい。

【回答】福井県では、想定氾濫区域内の人口、資産、その密度、堤防の有無などによって治水安全度の規模を設定している。概ねの値としては、福井市内の河川は 1/50 確率、それ以外の市の中心地を流れる河川は 1/30 確率と設定している。ただし、これらの改修が完了するまでには長期間を有するため、当面の目標としては、全県的にまずは 1/10 確率の整備を満たすように整備を進めている。

【意見】例えば、河和田川の進捗点検結果では、計画規模として 1/30 確率としているが上流区間では 1/5 確率の安全度が確保できたので大丈夫としている。一般の方にはわからないので、問題点や今後工夫が必要な点などを示した方がよい。

【回答】今後、参考にさせていただく。

【意見】河川改修やダムの建設にあたっては、土木だけでなく防災や環境部局と連携すべきであるとの意見を過去の流域委員会で申し上げた。今後、整備を進める上で上記の連携をはかるべきである。

【回答】福井県としても同じ認識である。

【意見】最近、河川を利用する流域住民が徐々に増加していると感じている。そのために、安心・安全な川まちづくりが重要である。川を利用する立場からの進捗点検などを進めていただきたい。

【回答】川の利活用は非常に重要であると認識している。住民団体の方との協働で環境

教育の取組みを行うことを考えている。

【質問】 魚道の設置・改修について、今後の予定を教えてください。

【回答】 具体的な計画はないが、現状での課題や魚類の生息状況などを確認し、漁協や地元の方の意見をうかがいながら順次整備を進めていく。

【質問】 出水の後などに魚道への流路が埋まっている場合がある。流路の開削など、応急的な処置を行ってもらうことは可能か。

【回答】 予算的な制約もあるので漁協の方々と相談して対応する。

【意見】 環境教育の一環として、例えば狐川の親水空間に簡単に水質をはかれる施設や魚の観察を安全にできるような施設をもうけるなどの工夫をお願いしたい。

【回答】 現在、地元の小学校、中学校等と、“こういう川にしたらいいね”というワークショップを開いている。また、現地で10cmの水深で底に書いてある文字が見えるかなどのイベントを通じて環境教育を行っている。今後ともこれらの活動を継続していきたい。

【質問】 吉野瀬川、鹿蒜川の旧川部分を自然教育のフィールドとして活用することは可能か。

【回答】 吉野瀬川の旧川は、平常時に水が流れているので可能である。  
鹿蒜川の旧川は、埋められて宅地化されているので不可能である。

【質問】 多自然川づくりで植生が大分回復してきたとの評価であるが、どのような植生の回復を最終目標としていたのか。

【回答】 基本的には、従前有していた良好な自然環境の再生を目標としている。

【意見】 最終目標の植生、草種として、外来種や花粉症の植物として有名なカナムグラなどの衛生害草区域を区割りし、環境をコントロールすることで生育を抑制することが望ましい。

【回答】 外来種の駆除については行政だけでは限界があるので、地域住民と一緒に駆除活動を行うなどの取組みを行いたい。

【意見】 狐川の植生も、自然教育の面からは在来植生で覆うことがよい。

【質問】 水田貯留の現地検証実験で費用と効果が確かめられたのか。

【回答】 ある程度の効果は確かめられたが、定量評価までは至っていない。

【質問】 松ヶ鼻頭首工の改築に合わせて魚道を改修したように、利水施設の改修にあわせて治水面での対策を行うなどの連動した計画はあるのか。

【回答】河川改修を行う場合には当然魚道の改築も連携して行っていく。ただし、河川整備計画の対象区間以外では、必要な箇所をポイント的に整備する。

【質問】吉野瀬川のところで工業用水の取水口の改修が行われているが、その工事は進捗点検の対象にはならないのか。

【回答】河川整備計画の進捗点検は、河川管理者が主として行う工事を対象にしており、工業用水の取水口の改修は対象外である。

【質問】工業用水の取水口の工事は河川全面を掘削しており、環境への影響が懸念される。モニタリング等を行っているのか。

【回答】利水者が国あるいは県の許可をとって行っている河川工事と思われる。国土交通省とも連携して状況を確認し、適切な指導を行う。

治水計画の確認について、河川管理者から以下の説明を行った。

## 2. 治水計画の確認

- 1) 治水計画の計画諸元の確認
- 2) 新たな河川工事の位置付けの検討

### ■委員からの主な意見・質問及び河川管理者の回答

【質問】計画降雨量として河川によって2日雨量、1日雨量、1時間雨量で表示されているが、なぜか。

【回答】川の規模によって短時間雨量の影響が大きい場合と長時間雨量の影響が大きい場合がある。河川の特성에応じて計画の対象雨量を採用している。

【質問】平成19年から平成24年の実績降雨量は計画降雨量以内に収まっているとのことであるが、平成16年の福井豪雨はどうか。

【回答】河川整備計画は平成19年に策定したもので、その時には平成16年の福井豪雨を加味している。今回は、平成19年以降の雨の降り方を確認したものである。

【意見】2日雨量や1日雨量を採用した根拠を示すべき。

【回答】今後、留意する。

【意見】自然再生とか多様性だとかの言葉が流行っているが、何がそうなのかは解明されていない。言葉に踊らされて少し新しいものをつくろうとしているのではないか。インフラの整備にはこれらはあまり必要ない気がする。従来のものを続けていくことの中に、それをつくる人たちの心が、少なくとも自然を再生しているとか、福井の川らしい川をつくっているということが徹底されていたら、

20年後、30年後にきっといいものが再生できていると思う。

【意見】九頭竜川流域懇談会は1年に1回開催されるが、事業進捗している現場を見る機会を入れてもらおうとそこで意見交換が生まれるのではないか。御検討をお願いしたい。

#### ◆その他

---

- ・現場見学会の実施について、事務局で相談する。
- ・次年度の流域懇談会は、国土交通省は事業実施報告、福井県は九頭竜川下流ブロックの進捗点検を報告する。

(以上 17:12 閉会)